



Embassy of Japan

2015 年 7 月 2 日

親愛なるカンボジアの皆様

カンボジア駐劄特命全権大使の隈丸優次です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

4月6日にめでたく開通となった「つばさ橋」ですが、その後も、様々な機会に、同橋をご利用になったカンボジアの皆様から「河をまたぐ往来が大変便利・迅速になった」との大変高い評価を頂いております。また、新たな観光スポットとして、カンボジア各地より大勢の方々が来られているとも聞いております。カンボジアの皆様につばさ橋がとても愛され、私としても大変嬉しく思っております。

総工費約 1 億 2,700 万ドルをかけて建設されたこの橋は、我が国の対カンボジア無償資金協力案件の中で「最大」の事業となったのみならず、カンボジア国内でも同構造の橋として「最長」の橋になりました。また、ベトナムからカンボジア、タイを通りミャンマーに至る「南部経済回廊」をつなぐ橋として、カンボジア国内及び日本の新聞やテレビでも大きく報道されました。

約 4 年の工期を経て建設されたつばさ橋ですが、その過程には様々な困難がありました。

一つ目は、カンボジア特有の環境条件です。雨季と乾季でメコン河の水位差が 7m を越えるため、乾季にしかできない作業などがあり、工事工程の管理は困難を極めました。特に、2011 年の大洪水では、河岸が 30m 浸食され資材運搬用の船着場が流されるなど、復旧に多大な時間を要しました。

二つ目は、不発弾の処理です。工事前および期間中に約 4,500 発もの不発弾が発見、処理されました。日本の港湾工事でも不発弾が発見されることがありますが、せいぜい数発程度です。特に、つばさ橋の両側にそびえる主塔の一つを建てるための杭打ち込み作業中に土砂を吸い上げる管の中で不発

弾が爆発し、管が破損しました。工事を再開するために、約4ヶ月もの間作業の中断を余儀なくされました。でも、最も幸いであったことは、工事期間中、不発弾の事故を含め、人的な被害は全く起こらず、安全な工事が一貫して確保されたことです。

三つ目は、作業員の言語の違いです。つばさ橋の工事には大多数のカンボジア人に加え、日本人、フィリピン人なども参加しました。特に雨季の直前には、乾季中にしかできない主塔の土台を作る作業を完了するため、1,000人を超える作業員が従事していました。このような現場で安全な操業をするための苦労は大変なものであったと思います。

このような様々な困難を乗り越えて建設されたつばさ橋ですが、当初の予定通りのスケジュールで開通することができました。今後、適正な管理をすれば100年間使用が可能な設計となっております。この橋が、今後長きにわたり日本とカンボジアをつなぐ友好の架け橋として、カンボジアの皆様にご利用され、末永く愛されることを期待してやみません。

日本政府は、カンボジア王国、国民のために実に多岐にわたる支援を行ってきていますが、インフラ建設、特に道路の建設の面では、南部経済回廊を構成する国道1号線、国道5号線に積極的な支援を行ってきていますが、今後も、2015年末のASEAN経済統合に向けた域内の連結性の強化を支援すべく、カンボジアへの支援を継続していく決意です。

最後になりましたが、皆様のご健康とご成功をお祈り申し上げます。

カンボジア王国駐劄特命全権大使

隈丸 優次

